

平成 28 年度第 5 回岡崎市交通政策会議 会議録

1 開催及び閉会に関する事項

平成 29 年 1 月 23 日（月）10 時 00 分 ～ 11 時 30 分

2 開催場所

岡崎市役所分館 2 階 202 号室

3 出席委員及び欠席委員の氏名

(1) 出席委員（18 名）

伊豆原	浩二	委員	（愛知工業大学 客員教授）
松本	幸正	委員	（名城大学 教授）
安達	雄彦	委員	（愛知環状鉄道(株) 運輸部管理課 課長）
近藤	博之	委員	（名鉄バス(株) 運輸部部長）
鋤柄	徹	委員	（名鉄東部交通(株) 取締役）
河口	恒徳	委員	（愛知県タクシー協会岡崎支部 支部長(名鉄岡崎タクシー)）
古田	寛	委員	（(公社)愛知県バス協会 専務理事）
			※金丸 健司 事務局長 代理出席
野中	寿文	委員	（愛知県交通運輸産業労働組合協議会 幹事）
前山	敏昭	委員	（岡崎商工会議所 交通部会長）
神尾	明幸	委員	（岡崎市総代会連絡協議会 会長）
加賀	時男	委員	（岡崎市障がい者福祉団体連合会 会長）
酒井	英二	委員	（岡崎市六ツ美商工会 会長）
鈴木	泰孝	委員	（額田地域生活交通協議会）
古橋	靖弘	委員	（国土交通省 中部運輸局 愛知運輸支局首席運輸企画専門官）
桑原	良隆	委員	（愛知県 振興部 交通対策課 主幹）
			※石屋 義道 主任主査 代理出席
深津	博司	委員	（愛知県 西三河建設事務所 維持管理課長）
大野	正弘	委員	（愛知県警察 岡崎警察署 交通課長）
			※春田 尚宏 交通課 規制係 代理出席
山本	公德	委員	（岡崎市 都市整備部長）

(2) 欠席委員（4 名）

木本	正則	委員	（名古屋鉄道(株) 東部支配人室 営業総務課長）
中村	龍明	委員	（岡崎市老人クラブ連合会 会長）
伊藤	光明	委員	（国土交通省 中部運輸局 交通政策部 交通企画課長）
大竹	隆	委員	（岡崎市 副市長）

4 関係議題審議のために出席した地域内交通運行委託事業者の代表者等氏名
豊栄交通(株) 境 政義 氏
※横田 太 氏 代理出席
岡東運輸(株) 荻野 煌弐 氏

5 説明等のため出席した事務局職員の職氏名
福澤 直樹 (交通政策室長)、水上 順司 (副主幹)、井尻 智久 (主任主査)、
成瀬 泰樹 (主事)、湯口 航平 (主事)

6 傍聴者、随行者等
5名

7 会長挨拶
(内容省略)

8 議題

- (1) 額田地域のコミュニティバス等の改善について
額田地域のコミュニティバス等の改善について資料1により説明した。

<以下、各委員の意見等>

座 長： 見直し時期について、委員の皆さんの承認をいただいたという事で進めて
よろしいか。

委 員： 異議なし。

座 長： 地域の皆さんに使っていただけるようお願いしたい。

- (2) 地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について
地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について資料2により説明した。

<以下、各委員の意見等>

座 長： 中部様式は中部運輸局独自のもので、平成28年度から新しい様式になった。
国様式は全国統一のもので、国にはこの様式で提出する。

委 員： 地域間幹線系統については、県の愛知県バス対策協議会で同様に計画をつ

くり、事業評価を国に提出している。岡崎市に關係する地域間幹線である大沼線、桜形線、くらがり線は、利用者数が非常に伸び悩んでいる。大沼線は昨年度の4万人台から5万人台に回復したが、桜形線は4万人台に低迷し、くらがり線は昨年度からやや回復しても、2万人台で非常に厳しい。桜形線、くらがり線は、国の補助基準に達していないので、原因の分析や利用促進について皆様のご意見をいただきたい。

事務局： フィーダーの路線は幹線があって初めて成り立つので、額田地域のコミュニティバスだけでなく、乗継ぎができる名鉄バスも一緒に利用しましょうと地域に話をしている。地域の皆さんも乗っていただいて、昨年と比べれば、上向いたが、利用者数が厳しいので、今後も地域の皆さんと一緒に幹線の利用についても考えていきたい。

岡 東： バス路線は利用者数が低迷しているが、タクシーの利用者は増えている。

座 長： 平成29年4月から見直す路線は、10月からの反映ではなく、4月ではないか。

事務局： 平成29年10月からの変更で進めてきたが、今回承認いただいたので、4月から変更する路線は4月に変更する。

座 長： 昨年度までは補助事業中心の評価だったが、今回からの中部様式1は、地域、市民、委員の皆さんに、市は何をどう展開しようとしているのか、全体が見えてその中の補助事業が分かるように変更した。そのような視点でこの資料を見てほしい。

副座長： 評価は額田支所市民病院線と形埜、豊富・夏山が未達成であった。資料2-1を見ると、地域と協議を進めます、利用促進をしますと書いてあるが、国様式の額田支所市民病院線に、ICカードの利用や接続する幹線系統との乗継割引制度等を住民に周知と書いてある。これを中部様式に入れたらどうか。

事務局： 中部様式にも入れるよう変更する。

座 長： 中部様式の対応と方針に、今の指摘を入れると分かりやすくなる。修正については、事務局と松本先生と私で責任もって対応し、承認いただいたという事でよろしいか。

委 員： 異議なし。

- (3) 平成 29 年度岡崎市交通政策会議事業計画(案)について
平成 29 年度岡崎市交通政策会議事業計画(案)について資料 3 により説明した。

<以下、各委員意見等>

座 長： 平成 29 年度予算については 3 月議会で確定するので、来年度に詳細は分かると思うが、公共交通に親しむ日を中心として事業を行いたいという事である。交通事業者さんにはいつもご協力、お願いばかりだが、是非、よろしくお願ひしたい。

委 員： 異議なし。

9 報告

- (1) バス路線評価の概要について
バス路線評価の概要について資料 4 により説明した。

<以下、各委員の意見等>

委 員： 資料 4 - 2 の利用人数の項目で、前回はバス停ごとの乗車と降車を全部足したものという説明だった。一般的な利用人数と違って倍になってしまい、1 便当り 97.8 人では多すぎて、定量評価指標の 15 人/便以上や、5 人/便以上との整合性は問題ないか。

事務局： 資料の数字は確認する必要があるが、考え方は乗車のみ的人数を使いたい。

座 長： 資料 4 - 1 の定量評価指標と大きくかけ離れるので、乗車人数でお願いしたい。

委 員： バス路線評価のやり方は、いつどこで承認をとるのか。

事務局： バス路線評価のやり方は交通政策会議の承認が必要だと考えている。時期はできるだけ早い時期を考えているが、今回の会議では報告という形で説明した。

座 長： 来年度の 10 月以降に評価をしていく事になるので、来年度の前半か夏前ぐらいには承認が必要である。

事務局： 夏前には承認をいただくよう事務を執り進める。

副座長： 大きく路線を改編すると、改編後すぐは利用者が減ってしまうが、また盛り返すこともあるので、スケジュールの3年のサイクルは良い。また、毎年、軽微な改善をやっていく事も良い仕組みである。

一方で、進学、就職、転勤など大きくライフスタイルが変わるのは4月である。国の補助対象期間が10月～9月という事もあるが、軽微なものだけでも4月1日の変更も視野に入れてほしい。

評価シートについて、生活交通路線は運行維持への地域の取り組みがあるかどうかを評価し、支線交通・基幹路線は事業者が沿線住民の移動性の確保をどう考えるかを評価することは今まで例がない。

特に、生活交通路線は、地域としては何かやりたいと思った時に、評価結果をどう考えるかというのがあった上で、次のアクションを考えると良い。

委員： 10月～9月の評価期間が実態として多いが、補助金については変更の届出をして貰えばよい。豊田市さんは4月1日から変更している。できることは4月なり、学期始まりの9月でも柔軟にやって良い。

委員： 事業者が路線をどう考えるかについては、まちなかと中山間地域では回答が変わるだろう。事業者としては、地域のニーズや補助が入っていることから答えていきたいが、非常に深刻な人員不足や、バスや鉄道等は大量輸送に適していることから、利用のない路線・地域については、役割分担を考えていかなければいけない時期ではある。

副座長： 評価シートに、事業者としての考え方を記入するという事でよいか。

委員： ケースバイケースでいろいろな意見を寄せてもらいたい。

座長： 事業者も評価する側になり、情報交換を密にすることが大切である。事務局、事業者、地域が同じ立場に立ち、情報交換できないと評価は上手くいかないのをよろしくお願ひしたい。

事務局： 生活交通路線の評価結果については、地域にフィードバックしていきたい。フィードバックした結果を次にどう活かすか、また、4月の改編についても、路線改善には微修正の記載はあるが、他にどのような反映方法があるか、今後の検討課題としたい。

座長： 鉄道との乗継で、鉄道の時刻表に応じてバスも変えることが重要である。例えば、バスに乗継いで高校生が通学している路線などは、鉄道とリンクし

ていないと使いにくいので、4月からすぐに変える必要がある。

また、ホームページでも良いので、市民の皆さんに評価結果を公表することはとても大切である。特に、生活交通路線は、定量評価よりも定性評価にウエイトを置き、評価審査会で議論することになると思われるのが、どんなウエイトでいくか、審査会でも議論してほしい。

(2) 公共交通に親しむ日の実施結果について

公共交通に親しむ日の実施結果について資料5により説明した。

<以下、各委員の意見等>

座 長： いつも多くの方に参加をいただいている。

委 員： このような機会をありがとうございます。

座 長： 子供達も大変興味を持って参加してくれるのでよろしくお願ひしたい。
公共交通に親しむ日を来年度も継続するので、参加していただきたい。

10 その他

(1) 岡崎市公共交通マップの作成について

岡崎市公共交通マップの作成についての資料により説明した。

<以下、各委員の意見等>

座 長： 今から4月に配布開始しようとするスケジュールはタイトである。
病院や診療所、買い物場所を地図上に落とし込むのは大変な作業と思うが、何かアイデアはあるか。

副座長： 目的地をマップに落とし込むのは楽しみだが、マップだけで全ての情報を提供するのには厳しい。ご高齢の方々や、いずれご高齢になる方々が、スマートフォンを持つ時代が間もなく来るので、インターネットやスマートフォンを通じた情報提供を考えていかなければいけない。

特に、この地方で一番要になるのは名鉄バスさんである。先日、ある市役所に行こうと検索したところ、バス停は〇〇市役所と簡単に検索できたが、本数が1時間に1本しかなかった。しかし、市役所から少し離れたところに、名鉄バスが多く走る路線があり、その路線に乗ろうと思ったが、名鉄バスのサイトの路線図は簡略図なので、バス停の場所や名前が分からなくて困った

ことがあった。岡崎は名鉄バスが非常に充実しているので、先駆けとなり名鉄バスさんと行政が一緒になって情報提供の仕組みが出来ると良い。

委員： そのようなご意見は多々いただいている。ただ、バスの特性として、色々な所から集まり、ある所を運行しながら、色々な所に散っていく運行形態が多いので、検索はあるバス停からあるバス停に行くにはどうなるかというものを出したい。系統情報から検索する場合は、系統が分からないと上手くヒットしない。系統が分かっても、東岡崎から岡崎駅前に行く場合など、別系統のバスが、隣のバス停から出ている場合があり、その時は上手くヒットしない。また、運賃も適正に出したい。色々な課題をどこまで解決できるか探っている段階であり、必要性は認識している。

事務局： 課題の例として、額田のくらがり線と宮崎地区線で、場所は同じで乗継が出来るように接続しているバス停の名称が、事業者路線とコミュニティバスで異なっていて、利用者にとって分かりにくいので、名称を合わせるなど対応したい。

インターネットサイトに公共交通マップを掲載しているが、スマホの画面では見づらいので、見やすくする事を考えていきたい。まちバスは検索できるよう1社に情報提供しているが、より多くのソフトに対応できるよう研究していきたい。

座長： モバイルによって今後情報量は増えていくので、モバイルの上手な使い方が行政にも必要である。交通の情報が他の情報とリンクしていないと意味がないので、行政と事業者で情報交換する必要がある。市のホームページに、名鉄さんのホームページのリンクを貼るなど検討してほしい。

紙ベースのマップの作成だけではなく、情報提供のより良い方法など事務局へご意見ください。

11 連絡事項

次回会議（平成29年度第1回）は平成29年6月頃を予定

－ 会 議 終 了 －